

(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		地すべり対策事業		路河川名等	日時区域	
事業毎の通番		2	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	
日時(ひどき)						
事業概要	事業目的	平成26年11月22日発生の長野県北部地震(長野県神城断層地震)により地盤が緩んでいる状況である。今後降雨期等では地すべり滑動が活発化する恐れがあることから、早急に地すべり対策を実施する必要がある。				
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(地すべり災害を防ぐ施設の整備)	事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法		
	関連する事業、計画等	なし				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家12戸、市道、公民館				
	着手年度	平成28年度	事業期間	4年間	事業費(千円)	
	完成年度(見込み)	平成31年度	費用対効果	5.28	財源内訳(千円)	
	全体事業内容(主な工種)	横ポーリング工 L=4,000m 法枠工 A=350m <sup>2</sup>	水路工 L=450m	200,000	国庫 100,000 その他 90,000 県債 10,000 一般財源 500	
	年度事業内容(主な工種)	地質調査 1式 地すべり観測・解析 1式	10,000	5,000	4,500 500	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家、道路等の保全			
		間接的効果(定量的・定性的)	災害に強い地域づくり			
評価の視点	必要性	人家戸数: 公共施設数: 要配慮者利用施設の有無: 河川への土砂流量:	保全対象人家14戸 長野市道下川榎の木線、西日時公民館 なし 20,000m <sup>3</sup>	評価	B	
	重要性	過去の災害履歴: 交通遮断による地域経済への影響: 地域防災計画上の位置づけ:	なし 長野市道下川榎の木線 既指定の地すべり防止区であり、地域防災計画に記載されている	評価	B	
	効率性	費用便益比(B/C): 事業期間: 工法等の比較検討:	B/C=5.28 4年間 現在のところ比較検討は行っていない	評価	A	
	緊急性	地すべり滑動度: 地すべり変状: 下流の堰堤等の整備状況:	2~3mm/月 程度の動きがある 斜面の表層崩壊や、端部の圧縮変状が顕著である 堰堤は満砂している	評価	B	
	計画熟度	事業情報の共有: 地域の取り組み: 地域の合意形成: 住民との協働:	関係者に対し事業説明会を実施し周知している 地元要望があり、合同で現地調査を実施している 整備手法に対し地域の合意形成が図られている 住民主導型避難体制づくりに取り組んでいる	評価	A	
	部意見	地震により発生した地すべりが、今後の降雨や融雪等により拡大する恐れがあり、緊急に整備する必要がある。	行政改革課意見	今後の降雨等により活動が活発化する恐れがあり、保全対象に人家、市道、公民館があることから、必要性は認められる。	評価結果	○
				総合評価	B	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

①Bブロック全景

②Aブロック全景

位置図

④水路変状

⑤土砂の押し出し

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当箇所は長野市信州新町中心部より北約2kmの一級河川太田川支流の匠沢右岸に位置し、地質は第三紀層で小規模な地すべりが数回発生している。保全対象は人家14戸、西日時公民館、長野市道である。平成26年11月22日に発生した長野県北部地震により地盤が緩み、その後の融雪に伴い表層崩壊や土砂の押し出しなどの変状が発生した。降雨期には滑動が活発化する恐れがあることから、早急に地すべり対策を実施したい。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地震災害発生直後から地域より要望がある。
③事業説明等の経緯	事業について関係者へ説明済み地元からの要望が強い。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	無し
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	横ポーリング孔口等、地表に露出するものは、ふとんかごなど自然の資材を用いた施工とし、環境や景観に馴染むよう配慮する。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により地すべり災害の防止が図られ、災害に強い地域づくりが推進される。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36.586075
	東経:E 138.013086